

防災せたがや

集合住宅における「在宅避難」

《発行日》令和4年7月1日
 《発行者》烏山地域区民防災会議
 《事務局》烏山総合支所地域振興課
 地域振興・防災担当
 《所在地》世田谷区南烏山6-22-14
 《電話》3326-9249



集合住宅の方必見！今後のため在宅避難に備えましょう。



避難所スペースには限りがあります。

烏山地域には、計10か所の指定避難所がありますが、烏山地域の人口は約12万人おり、避難所に避難できる人数はかなり限られます。また、避難所におけるコロナ対策により、さらに避難所に避難できる人数が少なくなることが予想できます。それでは、災害の際はどのように避難すればいいのでしょうか…

在宅避難を推奨します！

在宅避難は、自身や家族にけがなどがなく、住居にも危険がなければ、自宅で避難生活を送ることです。在宅避難には次のようなメリットがあります。

- ① 自宅のためストレスが少なく、プライバシーも守れる！
- ② 少人数で生活ができ、感染症対策に通ずる！
- ③ 自宅で生活するため、犯罪被害にあう心配が少ない！

現在、世田谷区だけでなく、国や東京都も『在宅避難』を推奨しています。また、世田谷区では、古い建物に住んでいる方達のためにも耐震化を計画的に進めており、住宅の耐震化率は90%を超えています。また、区営住宅に関しては100%の耐震化率を達成しました。（震度6~7の耐震性あり）つまり、世田谷区の集合住宅等において急な災害時に備えをしておけば、在宅避難ができる確率が非常に高いのです。なお、避難所においても安心して利用できるよう、避難所整備に取り組んでおります。

避難所に避難できる人数って意外と少ないんだ…



集合住宅における在宅避難時の心得

1 大地震発生時には、水を流さないでください。

地震により、マンション内の排水管が壊れている可能性があります。もし、壊れているのにトイレや台所から水を流すと、低層階で水が漏れ、大きな迷惑になる可能性があります。



2 エレベーターには乗らないでください。

エレベーターが動いていても、余震などににより再び停止し、閉じ込め被害にあう可能性があるため、エレベーターには乗らず階段を使いましょう。もしも、エレベーターに乗っている際に地震が起きてしまった場合、閉じ込められないように階のボタンを全て押下するなど、非常時の対応が必要です。

3 ゴミは自宅に保管してください。

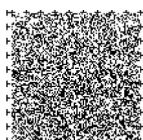
「ゴミ」の収集はしばらく停止となる可能性があるため、使用済みの携帯トイレなどのごみは当面の間、各戸のバルコニーなどで保管してください。

4 災害対応に協力してください。



マンションの応急対策としてやるべきことはたくさんあります。居住者の方は可能な限り協力をお願いします。特に次のような知識や技術を持つ人は協力をお願いします。

- ・ 建築、設備などの技術者
- ・ 手話や外国語ができる方
- ・ 水を高層階へ運ぶなど、体力に自信がある方



電気が使えなくなると？

大きな地震が発生すると、停電となる可能性は高いです。マンションで停電となった場合、どのような事態が起こるのでしょうか…

- ① 出入口のオートロックの扉や電気錠が動作停止する。
- ② エレベーターが緊急停止する。
- ③ 家電製品やインターネットが使えなくなる。
- ④ 断水により水が使えなくなる。
- ⑤ 火災の危険が発生する。 など…

事前の想定と準備は入念に！



停電となった場合、自身が住んでいるマンションは停電しても手動で出入口の扉が開くのか、停電時にエレベーターはこういった設定になっているかなど、事前に施設の設備を確認しておかなければ、災害時の行動に大きく影響します。事前にマンションの設備については確認しておきましょう。また、**モバイルバッテリー**は事前に準備し、携帯電話が使えなくなる事態を避けましょう。

水が使えなくなったら？

水が使えなくなると生きるための水はもちろん、生活に必須となるトイレの水が流せなくなってしまうです。そのため、**簡易トイレ**の備えは事前におきましましょう。また、簡易トイレのごみの臭い対策として、凝固剤や消臭剤、猫砂などがあると便利です。

断水対策の紹介

上記で水が使えなくなった時の対策として、簡易トイレの紹介をしました。簡易トイレの他にも断水時に備えておきたい事項を紹介します。

◎飲料水の用意

飲料水は、**1人あたり1日に3リットルが必要量の目安**になります。日頃からこまめにストックしておきましょう。

◎ウェットティッシュの用意

断水時はお風呂も洗面所も水が出なくなります。そのような時は使い捨てのウェットティッシュが役に立ちます。是非、用意しておきましょう。

◎給水ステーションの活用

災害時、水については給水ステーションで給水活動を行います。また、区民の協力のもと飲料用ではない生活用水を震災対策用井戸で提供します。(烏山地域では158か所)場所については、区のホームページからご覧ください。



給水場所一覧 (烏山地域)

①	よしね 葭根公園 (船橋6-21-1)
②	祖師谷公園 (上祖師谷3-22-19)
③	穴戸コンクリート工業株式会社 (給田3-2-15)

通電火災に十分注意を！

東日本大震災では、地震が原因で計330件の火災が発生しました。火災は、家具や電気機器が転倒し、可燃物と接触することで発生します。さらに、地震以外の風水害による停電においても、雨漏りなどでコンセントや配線が濡れた状態で電気が復旧した場合、ショートなどを誘発し、火災となる恐れがあります。

◎ブレーカーを落とす！

通電火災を防ぐために有効なのは、ブレーカーを落とすことです。最近では、「**感震ブレーカー**」といって、地震の揺れを感知して自動で電源を遮断するブレーカーもあります。なお、風水害時は自動で作動しないためご注意ください。

災害の備えは備蓄から

備蓄の基本は、**食料・水・トイレ**です。備蓄は消費期限を確認し、定期的に点検・交換しましょう。また、食料は、長期保存ができるものや、できるだけ水を使わないものを選びましょう。

◎自分に合った備蓄

東京都が作成した「**東京備蓄ナビ**」も参考にあります。家族構成など、簡単な質問に答えるだけで、各家庭に応じた必要な備蓄品目・数量がわかります。



東京備蓄ナビ

※東京都防災ホームページや東京都防災アプリからもアクセスできます。